

令和7年度学校評価報告書

令和8年3月25日

北海道教育委員会教育長 様

北海道登別明日中学校長 印

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- (1) 個性や能力の伸長に向けた、きめ細かな学習指導の充実
- (2) 生徒の多様化に対応し、健康・安全教育や教育相談活動の充実
- (3) 地域と保護者との連携を重視した教育活動の充実
- (4) 国際理解・グローバル教育、外国語教育などを通し、外国語（英語）による思考力・判断力・表現力の育成
- (5) 6年間を見通した計画的な進路指導の充実
- (6) 年齢の異なった生徒による相互交流とボランティア活動、自然体験活動、芸術鑑賞等、異年齢集団による活動や本物に触れる活動の重視

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な生徒が入学している現状から、旧来の教育観や授業スタイルでは学力の定着が困難になっている。 ○活発な探究活動により、主体性や自己肯定感の向上を図りながら、進路実績にもつながっている。 ○計画的な校内研修が実施できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の学習意欲を喚起させるような授業づくり、授業改善に努めることが大切だと感じる。 ○教職員の自己評価の厳しさが評価の低さに反映しているのはわかるが、学校全体で評価項目の確認や目的意識等の共有が必要である。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○「個別最適な学び」の充実を目指し、ICT機器の活用を図りながら、授業や評価方法の改善に引き続き取り組む。 ○各教科で、確かな学力を身に付けさせるための具体的な方策を立て、シラバス等に反映させる。 ○教員同士が教科横断的に生徒の話題を共通項として会話できる機会を確保する。また、校内研修を計画的に立案し、よりフレキシブルに参加出来るような体制を作る。 	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導事故に対して初動の遅さが目立った。 ○事故の未然防止および生徒支援・生徒理解の観点から、SCによる校内研修、SOSの出し方講座、定期的なエンカウンター等を実施した。 ○望ましい人間関係の構築ができる生徒の育成を、前期から計画的に進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今後も「いじめ・不登校」に対する対応は、継続して丁寧に取り組んでいく必要がある課題であると考えている。 ○教育相談体制の充実は必要不可欠であり、状況に応じた対応が求められる。特に、初期対応が重要であると考えているので、組織的な対応ができるようにしてほしい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○望ましい人間関係が構築できるよう、基礎期からコミュニケーション能力の向上を図る取組を実施する。 ○基本的な生活習慣やマナーの指導を、全教職員の共通理解のもと推進する。 ○生徒指導に関する記録を共有できるようにする一方、情報管理を徹底する。 	

進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ○志望校に合格するためではなく、その先の人生で社会貢献し「明日を創る」人材の育成を従来どおり実施できた。 ○英検受験にチャレンジしない層への働きかけが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路指導等については評価が高いが、国際交流等の取組を充実させている学校であるからこそ、英検取得の意欲向上を求める。3回生段階での英検3級取得率が低いのが気になる。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○前期段階から進路活動や探究活動に取り組む後期生の姿を見せることにより、進路意識の向上を図る。 ○英語でのコミュニケーション能力は高いため、英検受験に向けた意欲喚起を図る。 	
保健安全	<ul style="list-style-type: none"> ○カムチャツカ沖地震による津波避難により、危機管理マニュアルの見直しをすることができた。 ○「端末を用いた健康調査・心の天気」からの面談や、いじめの把握のためのアンケート調査（5・11月・2月）での追跡調査・面談・指導を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○交通安全に対する意識の向上、自転車の安全な乗り方について（ヘルメットや交通反則通告制度に関する理解等）の取組の継続を求める。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○SCと連携したSOSの出し方講座や校内研修が好評だったため、次年度も継続実施する。 	
対外・総務	<ul style="list-style-type: none"> ○ホームページは各担当が行事ごとに更新し、新たにインスタグラムも開設した。 ○小学生やその保護者に対する本校の周知の在り方について工夫しなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○アンケートの回答が少ないのが気になる。組織的な取組を期待する。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○学校案内パンフレットやポスターの内容を工夫し、積極的な生徒募集活動を行う。 ○生徒主体で保護者協力のもと進めるオープンスクールを定着させる。 	
寄宿舎	<ul style="list-style-type: none"> ○完全学習時間について、取組方法の見直しを図ったが、一部集中力に欠ける生徒がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き保護者が安心し、子どもたちが自己実現できるように指導をお願いする。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者に対しての積極的な情報発信により、満足度の充実を図る。 ○主体的に生徒が学習に取り組むことができる仕組みに変えていく。 	
運営全般	<ul style="list-style-type: none"> ○他の高校を受験する生徒が増加した。生徒数の減少や社会が急激に変化する中で中等教育学校の特色化をどのように出し、周知するかが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校魅力化に向けた取組は、大変素晴らしく、今後も継続してもらいたい。 ○市立中学校への編入や他の高校を受験する生徒の増加について、学校としてどう捉えて、どう対応していくのかが重要と考える。 ○6年間を見通した「ここでしかできない」教育活動の展開が生徒個々の魅力となるように努めてほしい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ○「本校の学びを通して身に付けさせる資質・能力」を日々の教育実践として積み重ねていくことが大切である。 ○AKB広報推進プロジェクト委員会を立ち上げ、生徒募集の在り方を様々な立場から意見をもらい、本校への志願者数を増やす。 	
公表方法	<ul style="list-style-type: none"> ・本校HP掲載 ・一斉メール配信等での周知 ・PTA総会等での資料説明 	

3 添付資料

- (1) 自己評価書
- (2) 学校関係者評価書
- (3) 三者（教員・生徒・保護者）評価の結果